

**学校施設のあり方に関する市民アンケート**  
**【基本方針検討時アンケート調査（H29 年度実施）結果との比較】**

■調査の概要

各アンケート調査の実施概要は以下の通りである。

	更新計画検討時（R2 年度）	基本方針検討時（H29 年度）
調査対象	令和 2 年 5 月 1 日時点において、上尾市に居住しており、平成 26 年 4 月 2 日以降に生まれたお子様がいる方を対象に、無作為に 1,500 名を抽出	① 小学生調査：516 名 （上尾市立小学校の第 5 学年児童） ② 中学生調査：548 名 （上尾市立中学校の第 2 学年生徒） ③ 保護者調査：1,064 名 （上記の保護者） ④ 教員調査：349 名 （上尾市立小中学校に勤務する教員）
配布方法	郵送配布	① 小学生調査：担任教員から配布 ② 中学生調査：担任教員から配布 ③ 保護者調査：児童・生徒を介して配布 ④ 教員調査：対象校の管理職を介して配布
回収方法	郵送回収	対象校へ回収ボックスを用意し、直接回収
調査期間	令和 2 年 7 月 9 日～7 月 26 日	平成 30 年 2 月 16 日～3 月 7 日
発送数	1,500 通	① 小学生調査：516 通 ② 中学生調査：548 通 ③ 保護者調査：1,064 通 ④ 教員調査：349 通
回収数	623 通	① 小学生調査：497 通 ② 中学生調査：507 通 ③ 保護者調査：900 通 ④ 教員調査：295 通
回収率	41.5%	① 小学生調査：96.3% ② 中学生調査：92.5% ③ 保護者調査：84.6% ④ 教員調査：84.5%

■調査結果の比較

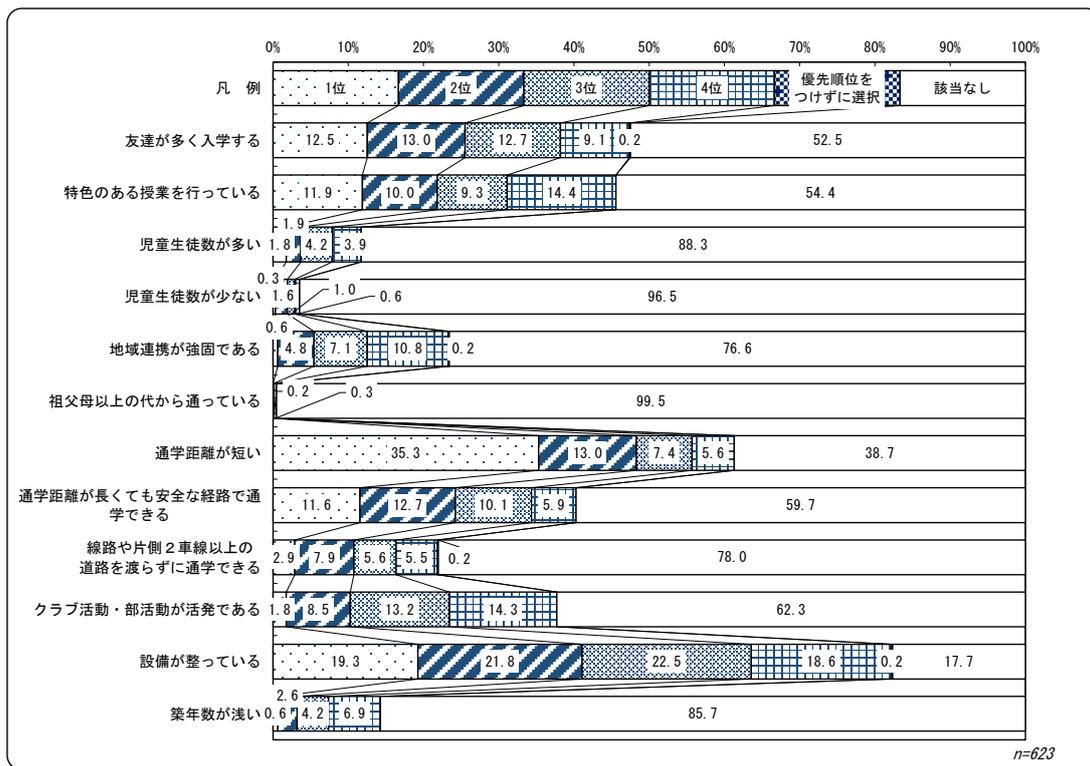
1. 学校に対する考え方

(1) 通う学校を選択できるようになった場合に、学校を選ぶ上で重要なこと【問4】

[上位4番目までの優先順位]

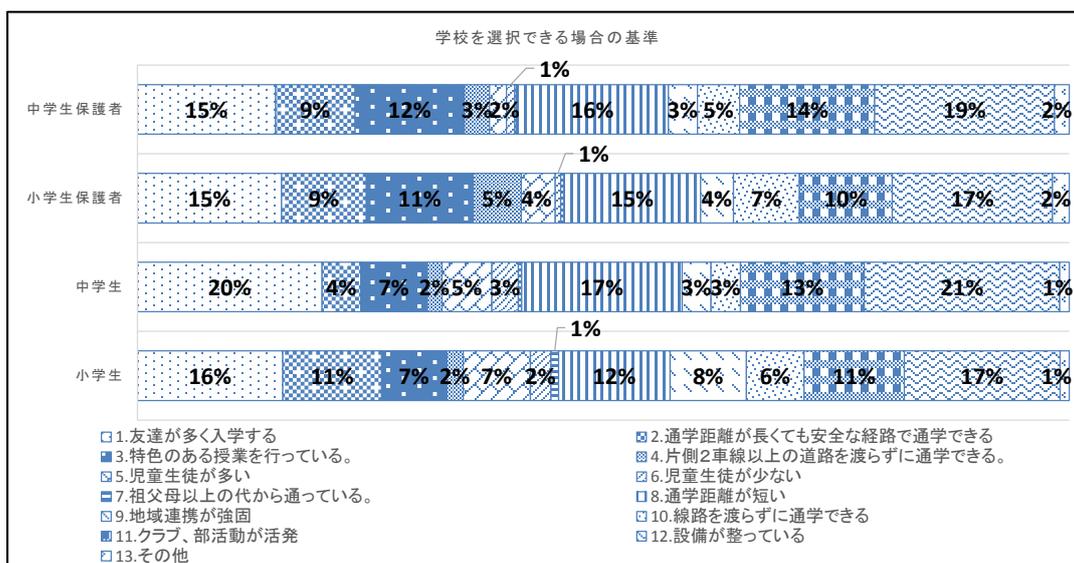
- 「通う学校を選択できるようになった場合に、学校を選ぶ上で重要なこと」に対する回答としては、「通学距離が短い」、「友達の多くが入学する」、「特色のある授業を行っている」、「設備が整っている」が多くなっている。
- H29年度アンケートにおいても、同様の傾向となっており、「学校を選択できる場合の基準」に対する回答として、「友達が多く入学する」、「通学距離が短い」、「設備が整っている」が多くなっている。

(R2年度：更新計画検討時)

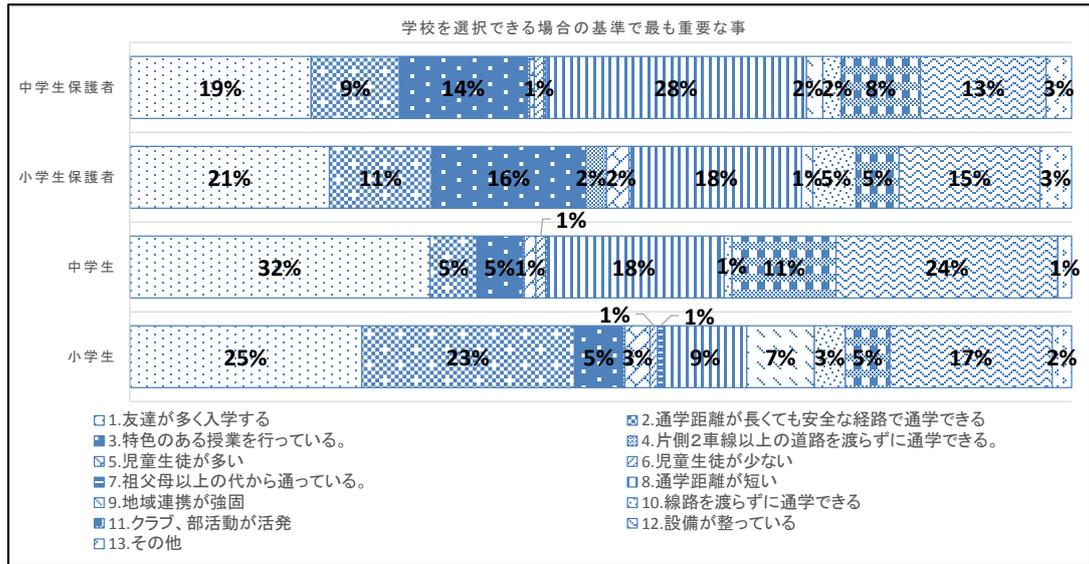


(H29年度：基本方針検討時)

■学校を選択できる場合の基準 (MA) ※ ※ (SA) は単一回答、(MA) は複数回答を示す (以下同様)。



■学校を選択できる場合の基準で最も重要なこと (SA)

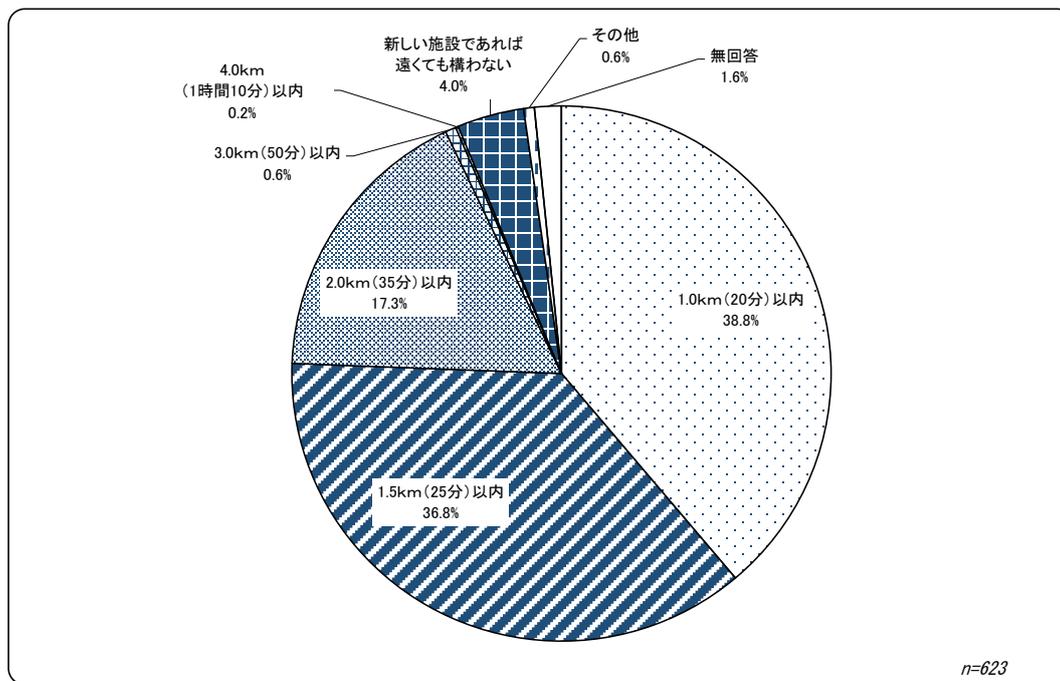


## 2. 学校施設の適正規模・適正配置

### (1) 小学生の通学距離として上限と思われる距離【問 5-1】

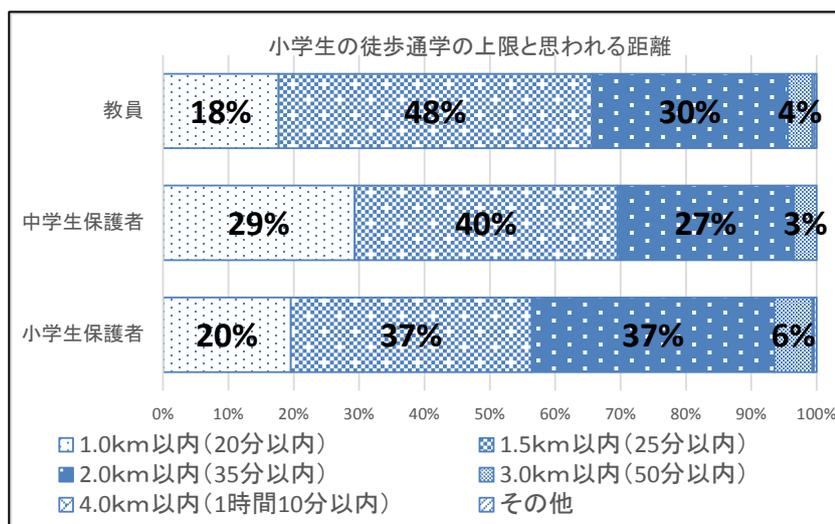
- 「小学生の通学距離として上限と思われる距離」に対する回答としては、「1.0km (20分) 以内 (38.8%)」が最も多く、次いで「1.5km (25分) 以内 (36.8%)」、「2.0km (35分) 以内 (17.3%)」となっている。
- H29 年度アンケートにおいては、「小学生の徒歩通学の上限と思われる距離」に対する回答として、教員及び中学生保護者は「1.5km (25分) 以内」、小学生保護者は「1.5km (25分) 以内」及び「2.0km (35分) 以内」が最も多くなっている。

(R2 年度：更新計画検討時)



(H29 年度：基本方針検討時)

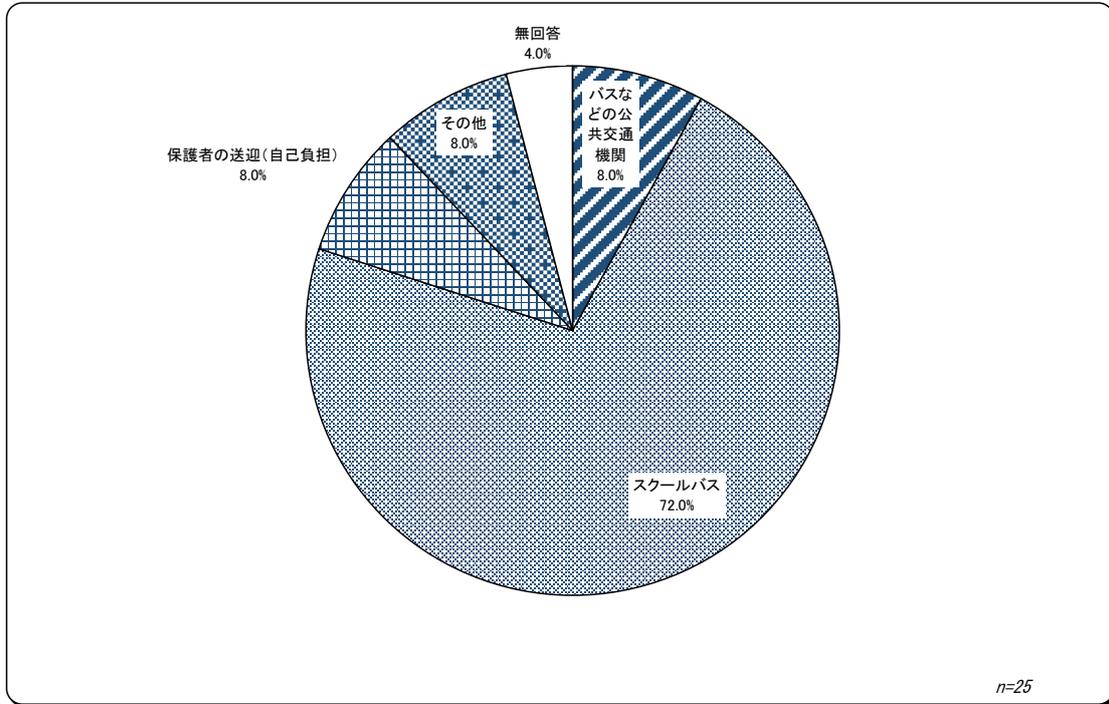
### ■小学生の徒歩通学の上限と思われる距離 (SA)



(2) 徒歩通学の上限を超える距離を小学生が通学する場合の手段【問 5-2】

- 「徒歩通学の上限を超える距離を小学生が通学する場合の手段」に対する回答としては、「スクールバス (72.0%)」が最も多く、次いで「バスなどの公共交通機関 (8.0%)」及び「保護者の送迎 (自己負担) (8.0%)」となっている。
- H29 年度アンケートにおいても、同様に「小学生の徒歩通学の上限距離を超える場合に望ましい通学方法」に対する回答として、「通学バス送迎」が最も多くなっている。

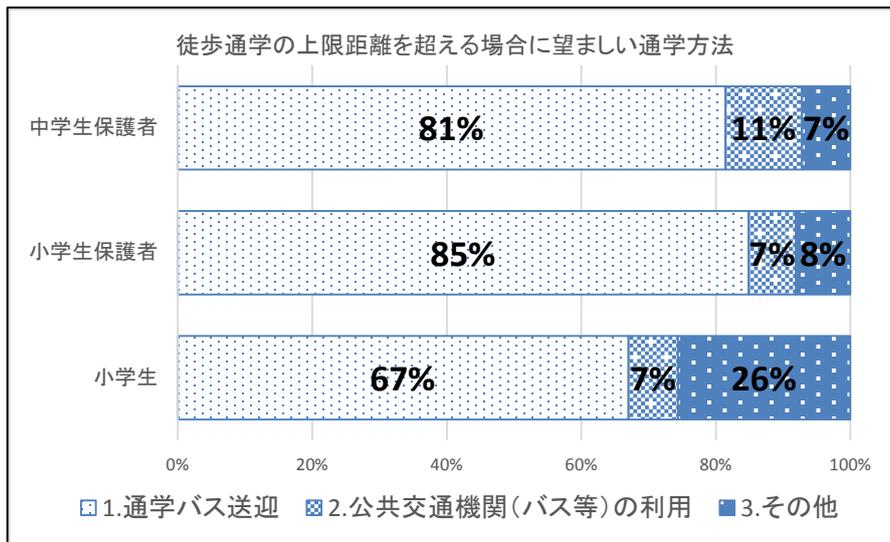
(R2 年度：更新計画検討時)



※前問で「新しい施設であれば遠くても構わない」を選択された方のみ回答

(H29 年度：基本方針検討時)

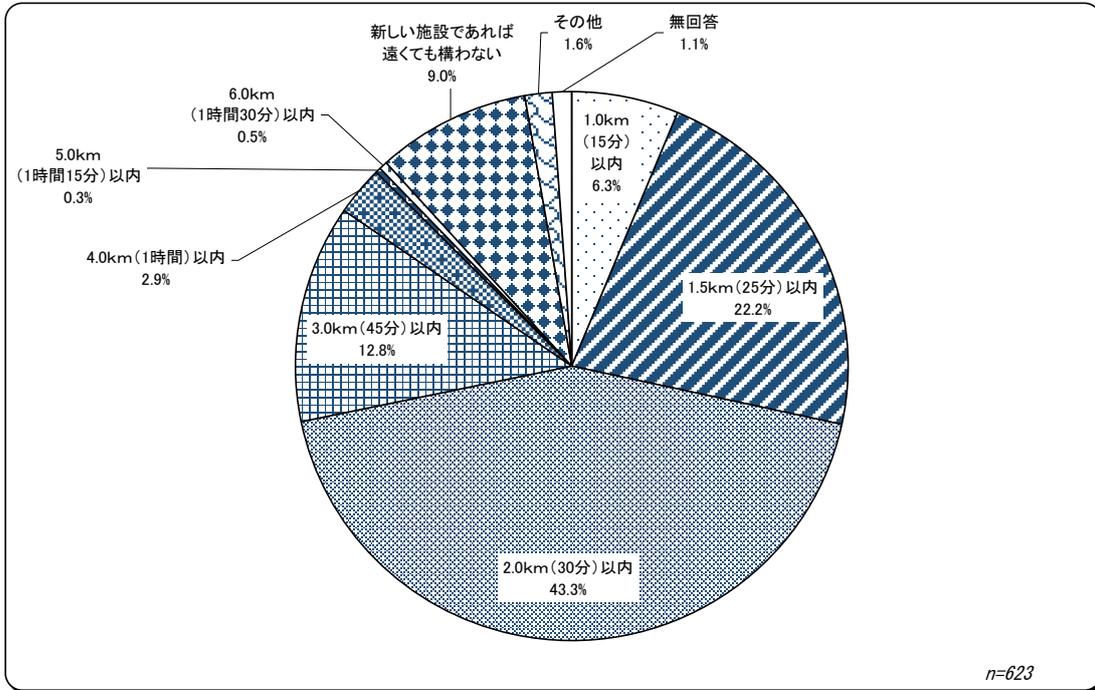
■小学生の徒歩通学の上限距離を超える場合に望ましい通学方法 (SA)



(3) 中学生の通学距離として上限と思われる距離【問 6-1】

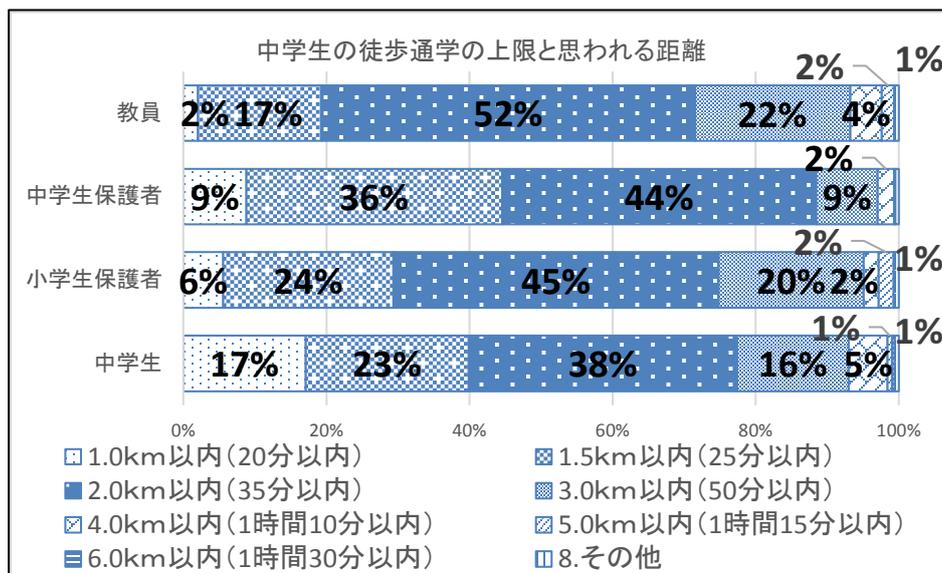
- 「中学生の通学距離として上限と思われる距離」に対する回答としては、「2.0km (30分) 以内 (43.3%)」が最も多く、次いで「1.5km (25分) 以内 (22.2%)」、「3.0km (45分) 以内 (12.8%)」となっている。
- H29 年度アンケートにおいても、同様に「中学生の徒歩通学の上限と思われる距離」に対する回答として、「2.0km (35分) 以内」が最も多く、次いで中学生保護者、小学生保護者、中学生は「1.5km (25分) 以内」、教員は「3.0km (50分) 以内」となっている。

(R2 年度：更新計画検討時)



(H29 年度：基本方針検討時)

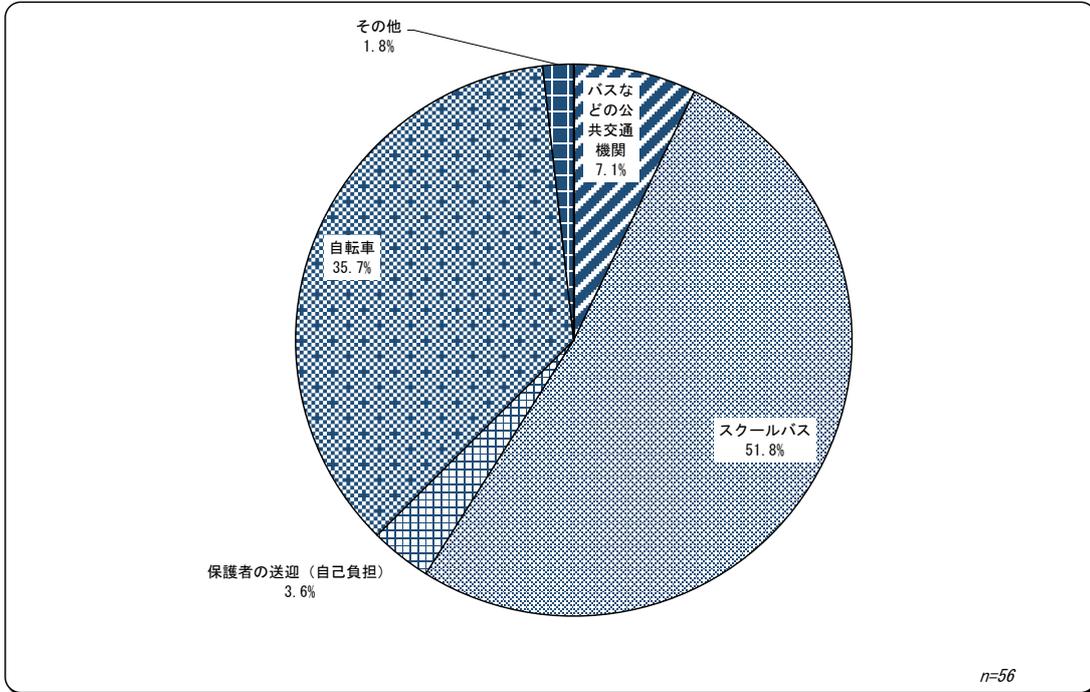
■ 中学生の徒歩通学の上限と思われる距離 (SA)



(4) 徒歩通学の上限を超える距離を中学生が通学する場合の手段【問 6-2】

- 「徒歩通学の上限を超える距離を中学生が通学する場合の手段」に対する回答としては、「スクールバス (51.8%)」が最も多く、次いで「自転車 (35.7%)」、「バスなどの公共交通機関 (7.1%)」となっている。
- H29 年度アンケートにおいては、「中学生の徒歩通学の上限距離を超える場合に望ましい通学方法」に対する回答として、「自転車を利用」が最も多く、次いで「通学バス送迎」となっている。

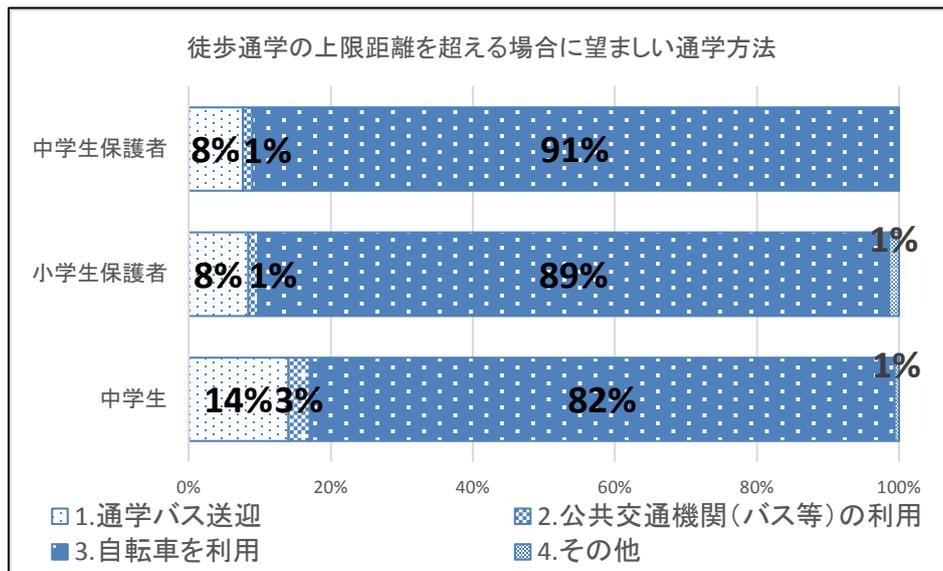
(R2 年度：更新計画検討時)



※前問で「新しい施設であれば遠くても構わない」を選択された方のみ回答

(H29 年度：基本方針検討時)

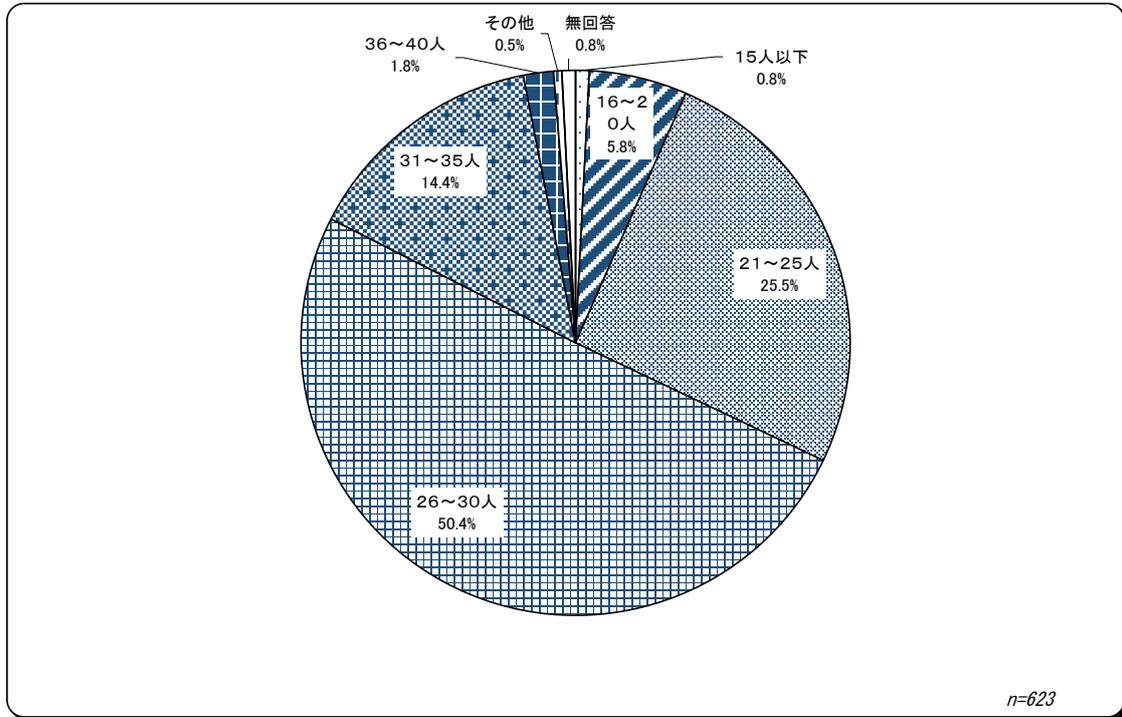
■ 中学生の徒歩通学の上限距離を超える場合に望ましい通学方法 (SA)



(5) 1学級当たりの適正なクラス人数【問7】

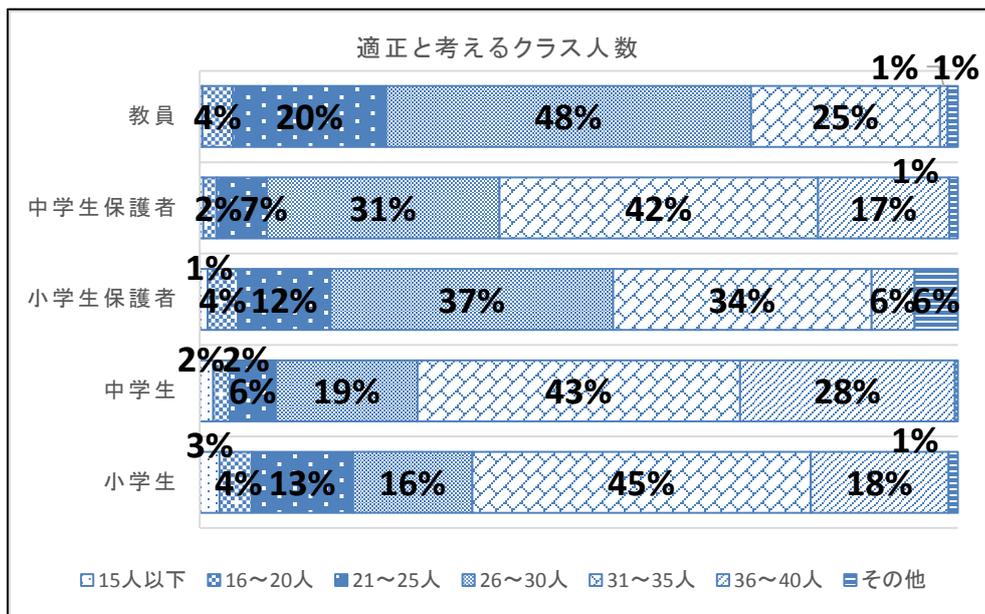
- 「1学級当たりの適正なクラス人数」に対する回答としては、「26～30人（50.4%）」が最も多く、次いで「21～25人（25.5%）」、「31～35人（14.4%）」となっている。
- H29年度アンケートにおいては、「適正と考えるクラス人数」に対する回答として、中学生保護者、中学生、小学生は「31～35人」、教員、小学生保護者は「26～30人」が最も多くなっている。

(R2年度：更新計画検討時)



(H29年度：基本方針検討時)

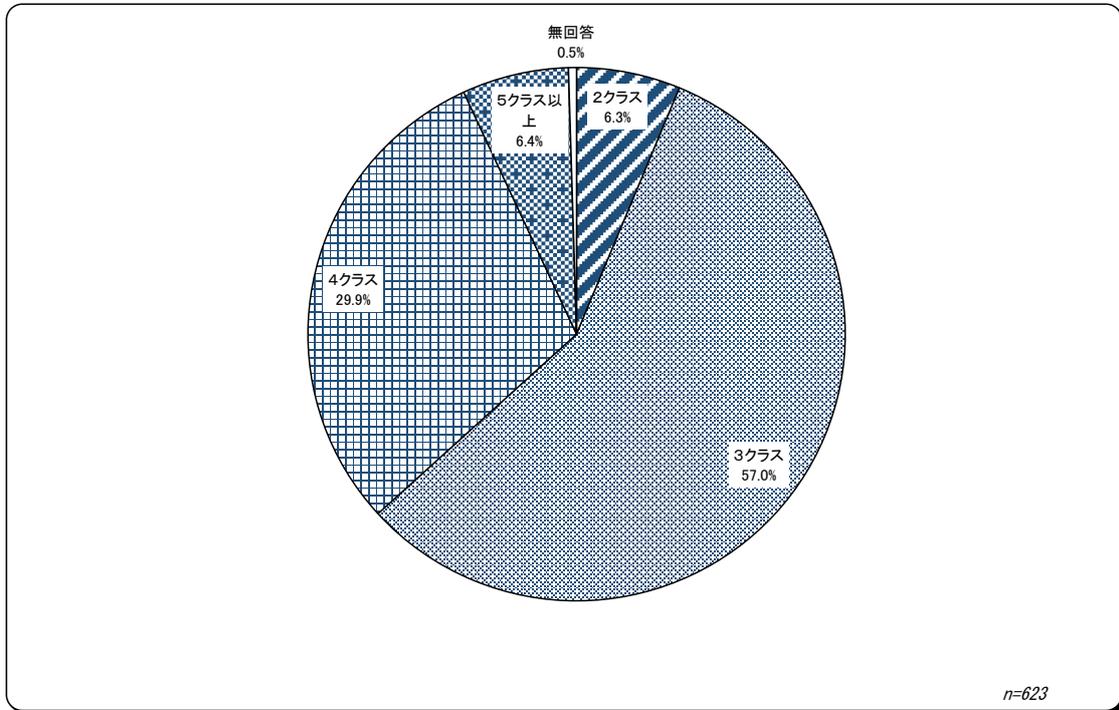
■ 適正と考えるクラス人数 (SA)



(6) 1学年当たりの適正と考える小学校のクラス数【問8】

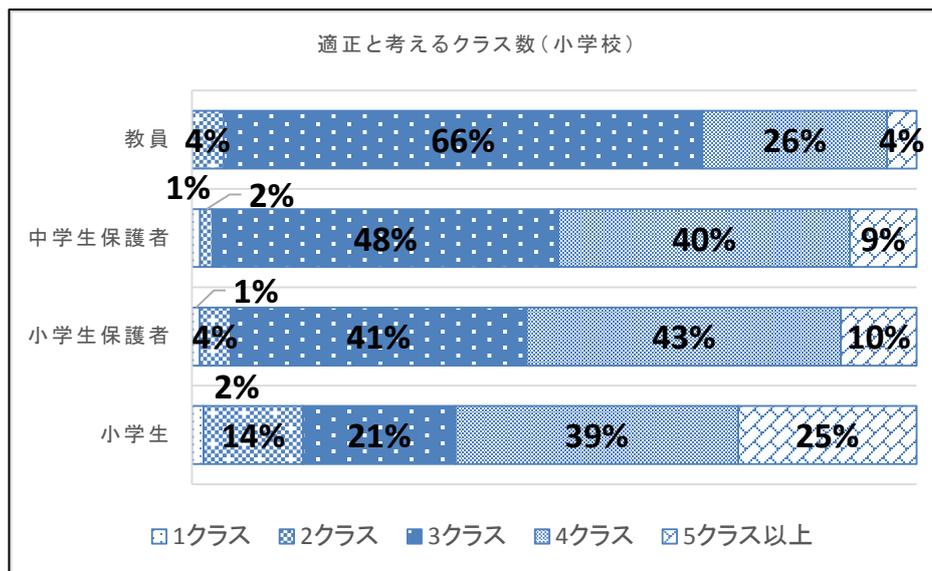
- 「1学年当たりの適正と考える小学校のクラス数」に対する回答としては、「3クラス(57.0%)」が最も多く、次いで「4クラス(29.9%)」、「5クラス以上(6.4%)」となっている。
- H29年度アンケートにおいては、「適正と考えるクラス数(小学校)」に対する回答として、教員、中学生保護者は「3クラス」、小学生保護者、小学生は「4クラス」が最も多くなっている。

(R2年度：更新計画検討時)



(H29年度：基本方針検討時)

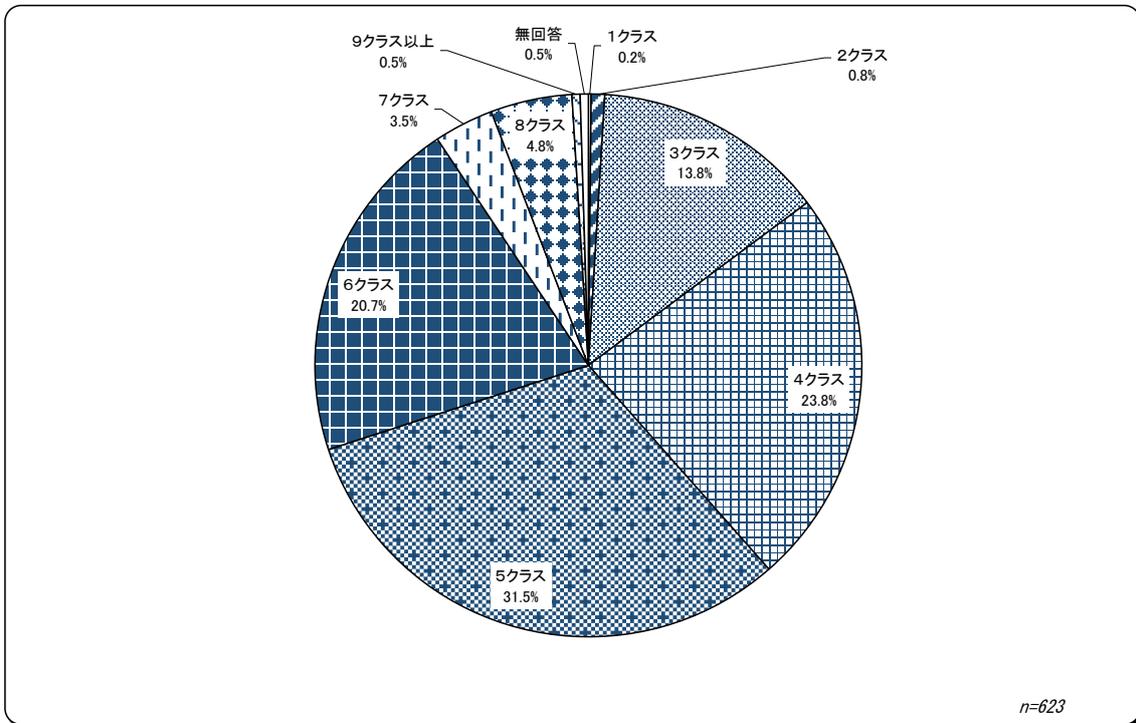
■適正と考えるクラス数(小学校) (SA)



(7) 1学年当たりの適正と考える中学校のクラス数【問9】

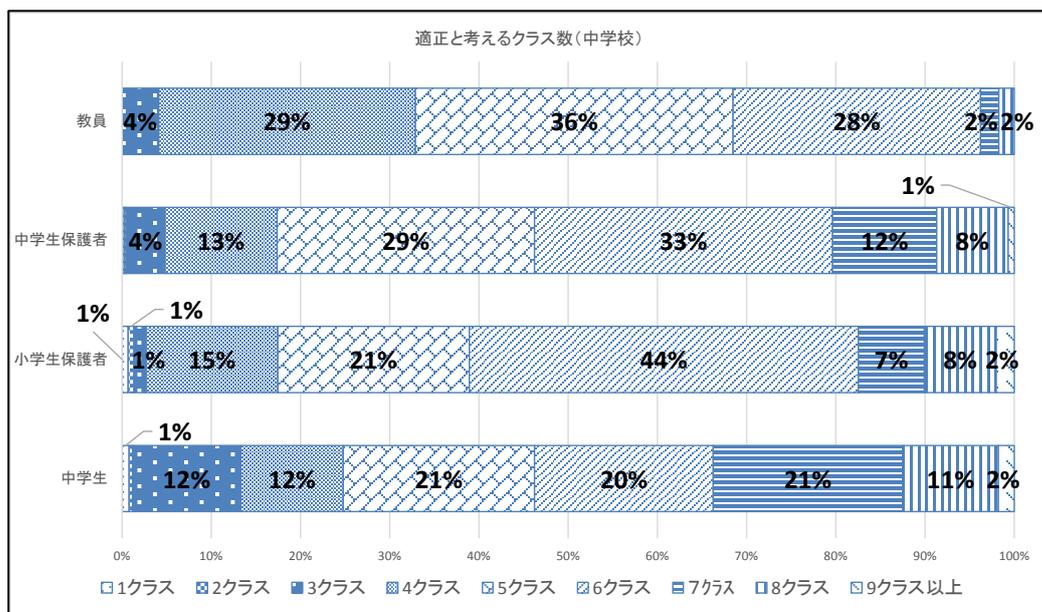
- 「1学年当たりの適正と考える中学校のクラス数」に対する回答としては、「5クラス(31.5%)」が最も多く、次いで「4クラス(23.8%)」、「6クラス(20.7%)」となっている。
- H29年度アンケートにおいては、「適正と考えるクラス数(中学校)」に対する回答として、教員は「5クラス」、中学生保護者、小学生保護者は「6クラス」、中学生は「5クラス」及び「7クラス」が最も多くなっている。

(R2年度：更新計画検討時)



(H29年度：基本方針検討時)

■ 適正と考えるクラス数(中学校) (SA)



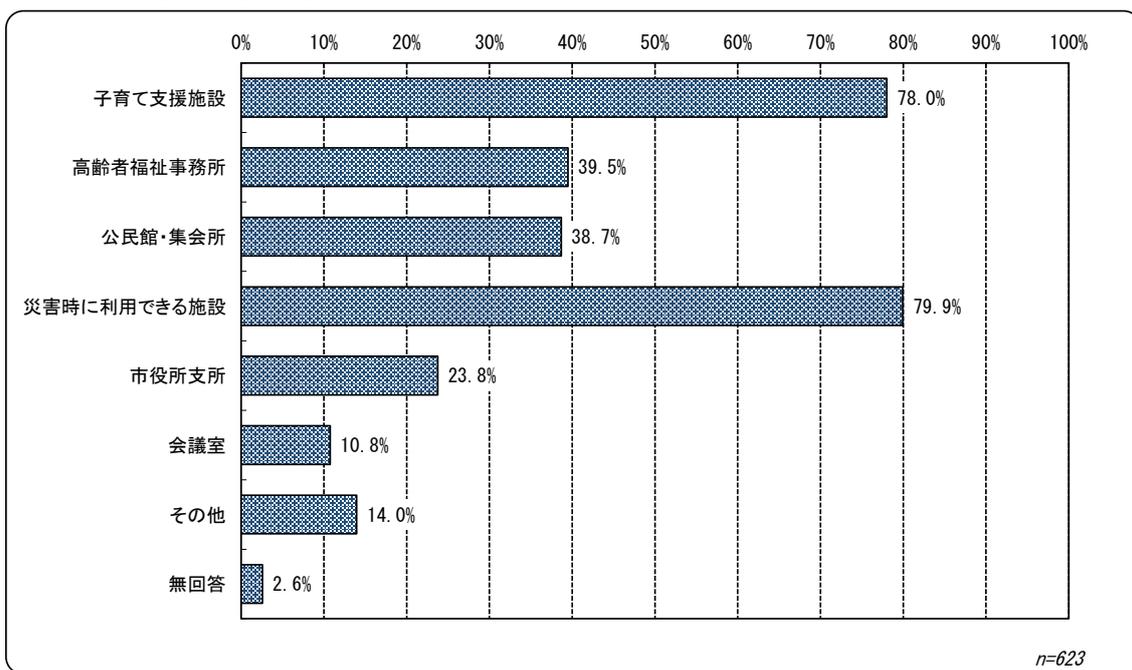
### 3. 新しい学校の活用方法について

(1) お住いの地区にある学校施設で、今後どのような新しい活用の仕方ができるか【問 12】

[当てはまるもの3つ]

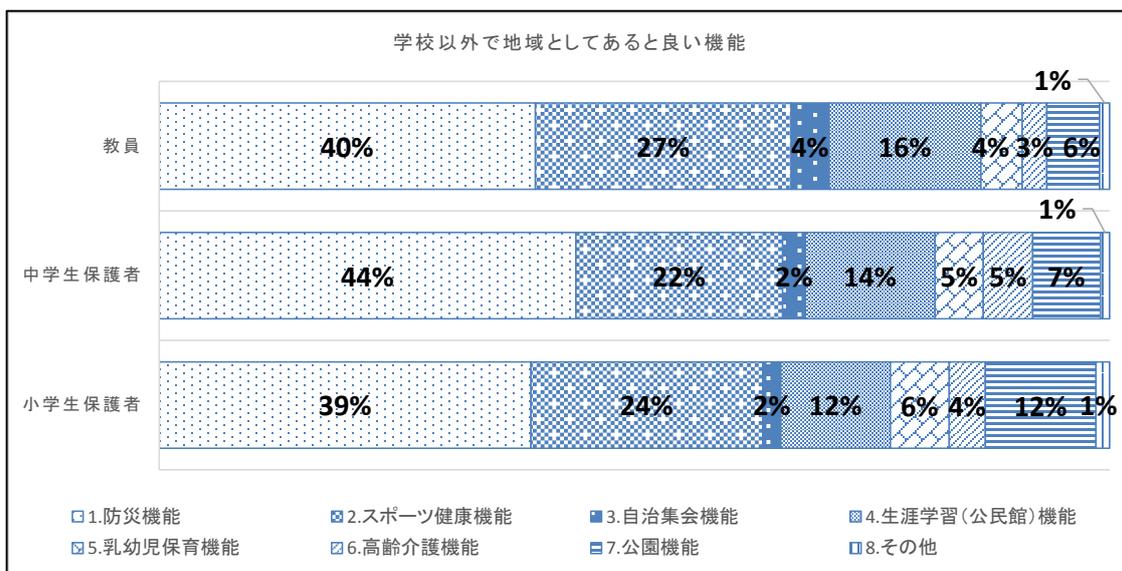
- 「お住いの地区にある学校施設で、今後どのような新しい活用の仕方ができるか」に対する回答としては、「災害時に利用できる施設 (79.9%)」が最も多く、次いで「子育て支援施設 (78.0%)」、「高齢者福祉事務所 (39.5%)」、「公民館・集会所 (38.7%)」となっている。
- H29 年度アンケートにおいては、「学校以外で地域としてあると良い機能」に対する回答として、「防災機能」が最も多く、次いで「スポーツ健康機能」となっている。
- また、小・中学生については、「災害時等に避難所となれる機能」、「地区の人がスポーツや健康についての勉強・活動ができる機能」、「散歩や遊びの場となるような公園機能」を良いと考える割合が大きくなっている。

(R2 年度：更新計画検討時)



(H29 年度：基本方針検討時)

#### ■学校以外で地域としてあると良い機能 (MA)



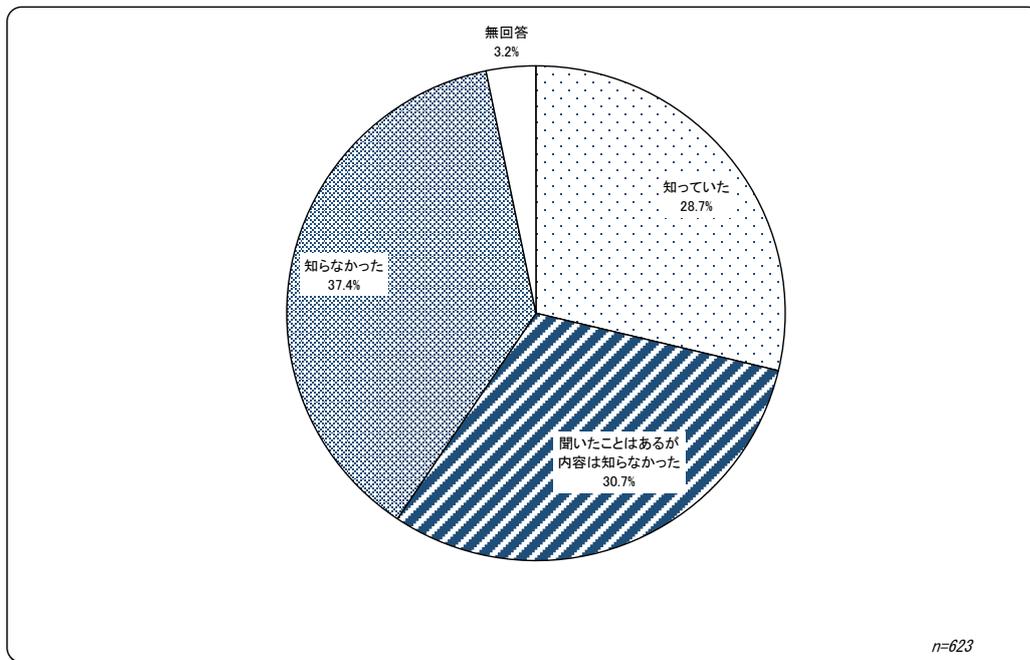


#### 4. 新しい学校教育について

##### (1) 小中一貫教育について、「別紙参考資料2」を見る前に知っていたか【問16】

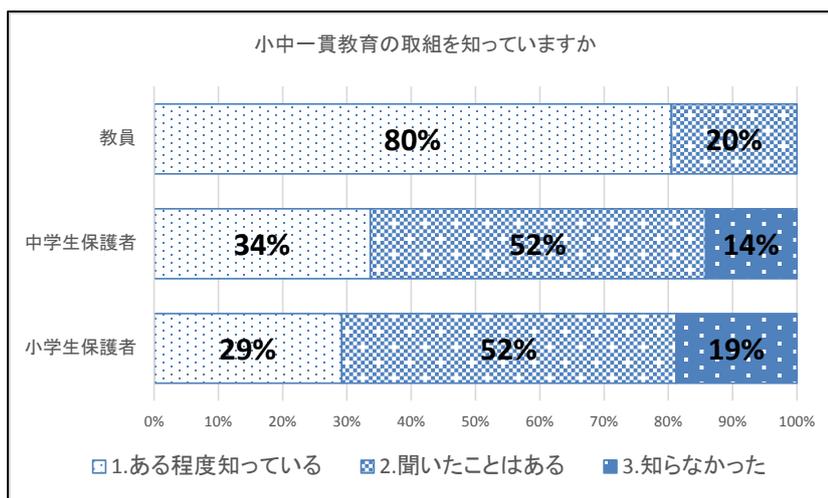
- 「小中一貫教育について、「別紙参考資料2」を見る前に知っていたか」に対する回答としては、「知らなかった(37.4%)」が最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らなかった(30.7%)」、「知っていた(28.7%)」となっている。
- H29年度アンケートにおいては、「小中一貫教育の取組を知っていますか」に対する回答として、教員は「ある程度知っている」、中学生保護者、小学生保護者は「聞いたことはある」が最も多くなっている。

(R2年度：更新計画検討時)



(H29年度：基本方針検討時)

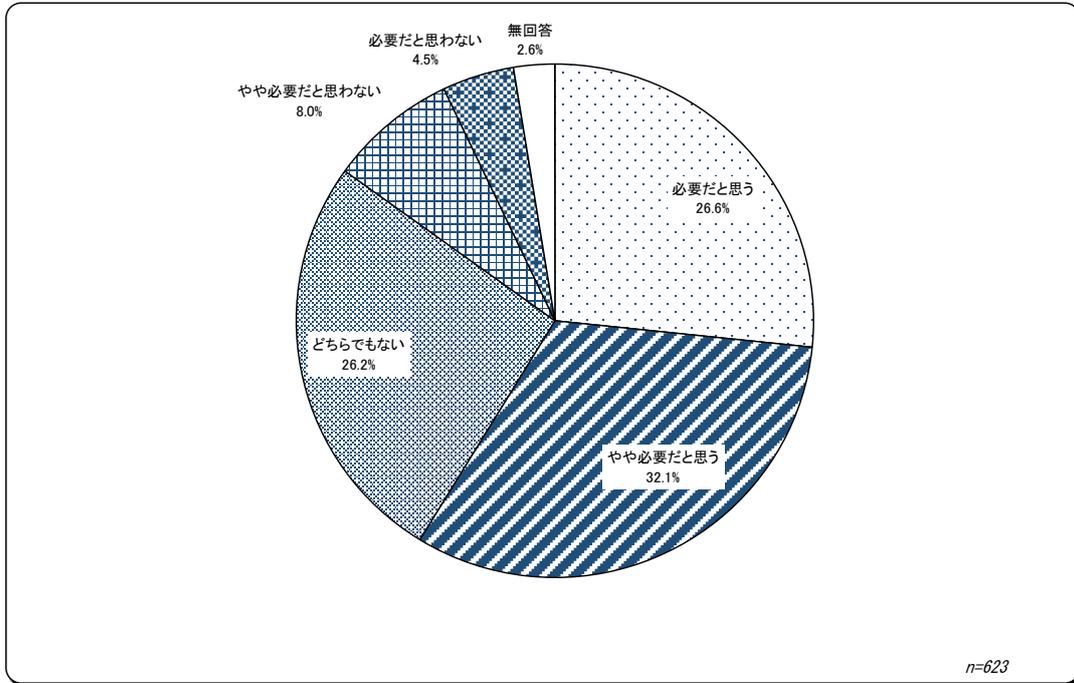
##### ■小中一貫教育の取組を知っていますか (SA)



(2) 小中一貫教育は、これからの学校教育として必要か【問 17】

- 「小中一貫教育は、これからの学校教育として必要か」に対する回答としては、「やや必要だと思う (32.1%)」が最も多く、次いで「必要だと思う (26.6%)」、「どちらでもない (26.2%)」となっている。
- H29 年度アンケートにおいては、「小中一貫校は、これからの学校教育として必要」に対する回答として、「まあまあそう思う」が最も多く、次いで教員、小学生保護者は「そう思う」、中学生保護者は「わからない」となっている。

(R2 年度：更新計画検討時)



(H29 年度：基本方針検討時)

■小中一貫校は、これからの学校教育として必要 (SA)

